

エリザ・R・シドモアさんをご存じですか？

日本を愛し、桜を愛し、桜を愛でる日本人の心を愛したシドモアさん。
世界的に有名なアメリカの首都ワシントン・ポトマック河畔の桜並木の生みの
親はこのエリザ・シドモアさんなのです。



ワシントン・ポトマック河畔の桜が日本からの贈り物で、当時の尾崎行雄東京市長が贈ったとされていますが、この日米親善のシンボルの桜を実現させた陰の立役者は、アメリカの親日家女性ジャーナリスト、エリザ・ルアマー・シドモアさんでした。

シドモア女史は、明治17年前後に数度に亘って来日し、その時の印象を、旅行記<Jinrikisha Days in Japan>(日本語版：恩地光夫訳「日本・人力車旅情」有隣堂)として出版しました。日本の桜の美しさに魅せられて、「ポトマックを日本の隅田川河畔(向島)のような桜の名所に！！」という夢を抱き続け、時のタフト大統領夫人に進言しました。彼女の熱意は日米両国を動かし外交ルートに乗って日本から桜の苗木3000本の贈与が決まりました。この時、資金面で支えたのは、三共製薬(株)の創始者でタカジアスターゼやアドレナリンを発見した高峰譲吉博士でした。また、横浜植木(株)が苗木の梱包・発送を、日本郵船(株)が無償で輸送を引き受けて下さいました。多くの方の善意と努力で1912年(明治45年)3月27日、ワシントンでシドモア女史も見守る中、日本から無事到着した桜の植樹式が行われました。

その後、スイスに移住し国際連盟で活躍したシドモア女史は、1928年11月ジュネーブで72歳の生涯を終えましたが、女史の遺骨はその死を惜しむ日本政府の配慮で日本に迎えられ、横浜山手の外国人墓地にある、母キャサリンと兄ジョージの眠るシドモア家の墓に手厚く埋葬されました。

しかし、時は流れ、かつての親日家一族の墓前に立ち止まる人影は少なく、日米友好の桜を見事に咲かせた彼女の功績も年月と共に次第に忘れ去られるままになっていました。

毎日新聞記者だった生出恵哉氏が、外国人墓地に眠る日本の近代化に貢献した外国人の連載記事を書く予定で取材した、その中の一人がシドモア女史でした。この連載予定記事は1984年「横浜山手外人墓地」(暁印書館)として出版されました。1986年、生出氏と郷土史研究家が発起人となりシドモア桜の会の前身となる「日本の桜を愛した女史の墓前に桜を植える会」を結成し、シドモア女史の顕彰碑建立のための寄付を呼びかけ32万円の浄財を集めました。1987年、シドモア女史のお墓の傍らに建立された、「日本の桜を愛した女性ここに眠る」と刻まれた顕彰碑の除幕式と「シドモア桜」と名付けられた桜の植樹を行い、横浜文芸懇話会、横浜ペンクラブが中心となり、シドモア桜の会第一回が開催されました。その後毎年、日米友好の桜のことを、そして国際親善に尽くした女史の業績をより多くの人に知ってもらおうと、桜の美しい時期にシドモア桜の会を開催しております。お花見がてら墓前に訪れる人々を見て、シドモアさんも喜んでいることでしょう。

日本を愛し、桜を愛し、日本とアメリカの間に桜の懸け橋を渡そうと努めた一人のアメリカ人女性を追慕し、その偉大な功績を末永く後世に語り伝えるために、皆様の温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。

2020年12月17日 シドモア桜の会 横浜